

ボランティニア ニュース

大野東小学校3年生 福祉体験学習♪ ～認知症サポーター養成講座～

10月21日に手話体験学習、22日に点字体験学習、そして27日に認知症の正しい理解者として「認知症サポーター養成講座」を受講しました。

認知症とは、脳の病気であり、すべて分からなくなる病気ではないこと。人の感情は必ず残ること。子どもたちには、お話しするときの3つの「ない」をお願いしました。

- ① 「急がせない」
- ② 「おどろかせない」
- ③ 「傷つけない」

認知症サポーター受講の証！
オレンジリングです♪

子どもたちは、「優しく教えたり、手伝ったり、何でも教えてあげることなら出来そう」「ちゃんと心があるから、嬉しいことや悲しいことは覚えているんだ」「道で迷っている人がいたら助けてあげたい」「症状が悪化しないようにやさしく対応したい」など、温かい感想がたくさんあり、正しい理解を深める時間となりました。今年も思いやりのある東小3年生の「認知症サポーター」が増えました。



まずは絵本やスライドを見て、「認知症って何だろう」「認知症になると起こること」を勉強しました！



次に寸劇「自動販売機で飲み物を買うことに困っているおばあちゃん」。東小3年のみんなだったら、どうするかを考えました！



最後に自分たちで考え、おばあちゃんにやさしく教えてあげたり、「ゆっくりでいいからね」と待ってあげることが出来ました♪



**大野東小学校3年生
手話体験学習をして♪**

たくさん感想があるなかで、聴覚障がい者への配慮に気づけた感想を一部紹介します♪

帰ってから家でテレビの音を消してみましたが、何を言っているのかわからないので、全然楽しくなかったです。

だからとても字幕は必要なんだと思いました。

手話はとても難しかったです。だけど、やればやるほど出来るようになるんだと思いました。

わたしも手話が上手になって、耳が聞こえない人と話せるようになっていきたいです。自分の名前をおぼえたので家族みんなの名前をおぼえたいです。(M.S.さん)

野地さんは耳が聞こえないけれど、幸せに暮らすために、色々な機械を使って暮らしていることが分かりました。テレビの端の方に手話をしている人がいるのは耳の聞こえない人のためなんだと分かりました。

さんぽの歌を手話で覚えたり、ゲームをしながら楽しく覚えることが出来て嬉しかったです。楽しかったのもっといろいろな手話を覚えたいです。(R.Y.さん)

子どもたちは家族と学んだことを話す時間を持ち、このように感想を発信することで、自然と子どもたち自身が、障がい理解を伝えていくボランティアをしています。

これからも市社協大野事務所はみなさんと一緒に、障がい理解のある大野地域を推進していきます。

大野ボランティア連絡協議会 ボランティアのつとめ

大野ボランティア連絡協議会(以下大野ボラ連)は、点訳・手話・音訳・施設訪問などのボランティアグループの集まりです。大野ボラ連は毎年、研修会「ボランティアのつとめ」を続けています。ボランティア同士がつどう場を持ち、勉強会をし、情報共有をしたり、会員同士が知り合うことで、お互いのボランティア活動を推進しています。

今年はコロナ禍の中「今出来る形でつどう場は考えられないだろうか」「勉強会ではなく、せっかくだからみんなが明るくなれる内容にしたい！」と役員たちは協議しました。

そして11月13日(金)、大野ボラ連主催の「ボランティアのつとめ『シニア世代を楽に暮らすための整理術～モノとココロの整理術@』」を開催し、31人が参加しました。

片付けコーディネーター^{ゆのうえ}湯上みどりさんをお迎えし、『服』や『写真』、『先代からのもの』などの整理術や、仕分け方、収め方などを学びました。

また『誰』にも『物』にも『背景』があり、捨てられないものがあるのは当然。これからの人生で一緒に歩みたいものを選びましょう」と聞き、少し安心する場面も。

参加者たちから「キッチンから見直してみよう！」との声。みんな一緒に、笑いあり頷きありの研修となりました♪



聴覚障がい者の参加があり、自然と座る場所の相談や、手話通訳しあう仲間。「日頃からのお付き合い」が「ささえあい」に繋がります。